

**共済金支払データに基づく
農作業事故の発生状況の分析（概要版）**

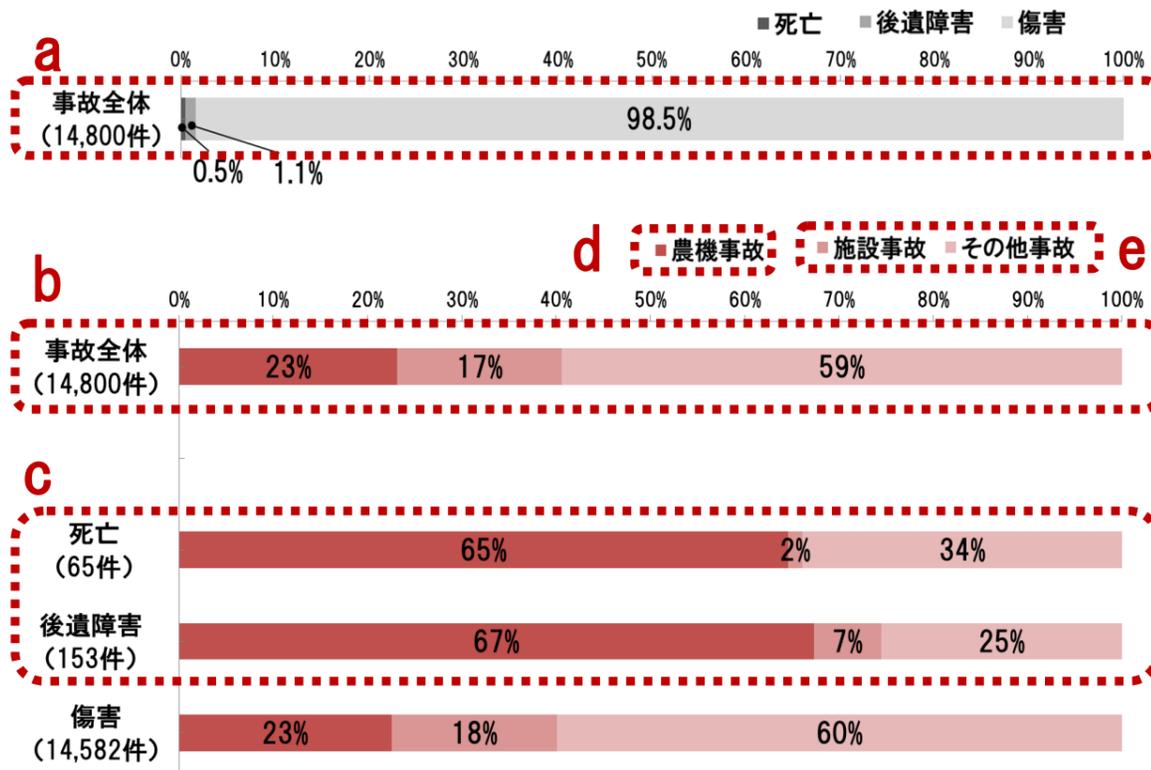
全国共済農業協同組合連合会

分析 1 (概要)

死亡以外の災害を含めた発生状況

毎年、農林水産省から公表される死亡事故の調査結果は農作業事故の全体からすれば氷山の一角といえます。今回、死亡にいたらなかった事故を含めて、より広範囲の農作業事故の実態を明らかにしました。

農水省調査による平成 28 年の死亡事故が 312 件であることを踏まえると、農作業事故は年間約 7 万件発生していると推測されます。



着眼点	まとめ	
a: 傷害の程度別	死亡 : 後遺障害 : 傷害 = 1 : 2 : 217	死亡事故は極一部
b: 事故全体	農機 : 施設 : その他 = 2 : 2 : 6	「その他事故」が多い
c: 重大事故	農機 : 施設 : その他 = 7 : 0 : 3	「農機事故」が多い
d: 農機事故	「乗用トラクター」については「発生頻度」および「重症度」のいずれの観点からも危険性が高い (図 7)	
e: 施設・その他事故	施設内外を問わず、「墜落」の場合に重大事故につながり易く、高所作業や急な斜面には注意が必要 (図 8、9)	

(注) 「重症度」は J A 共済連が独自に算出した指標です。

農機事故 (全体)

施設事故 (全体)

その他事故 (全体)

図 7 発生頻度と重症度 (平均) 【主要農機別】

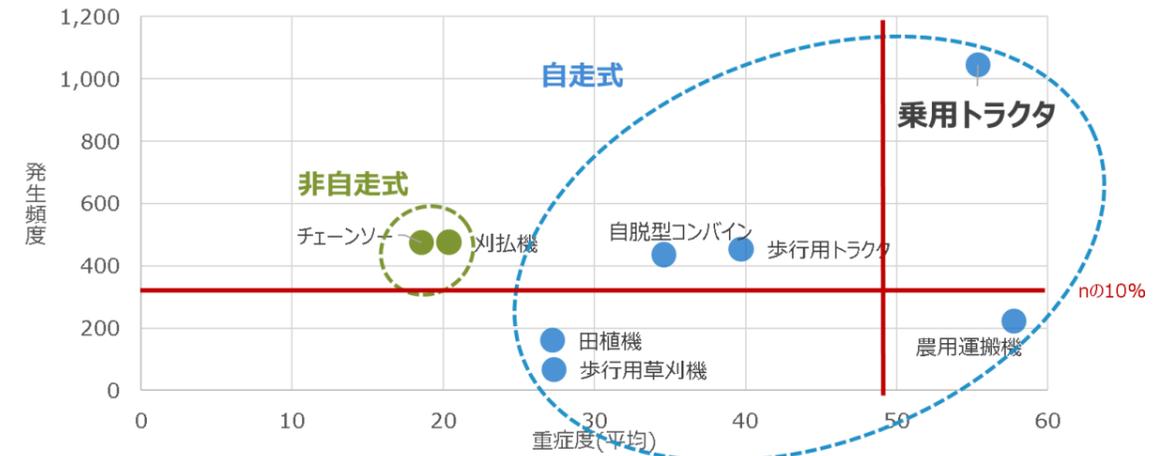


図 8 発生頻度と重症度 (平均) 【事故原因・発生場所別】

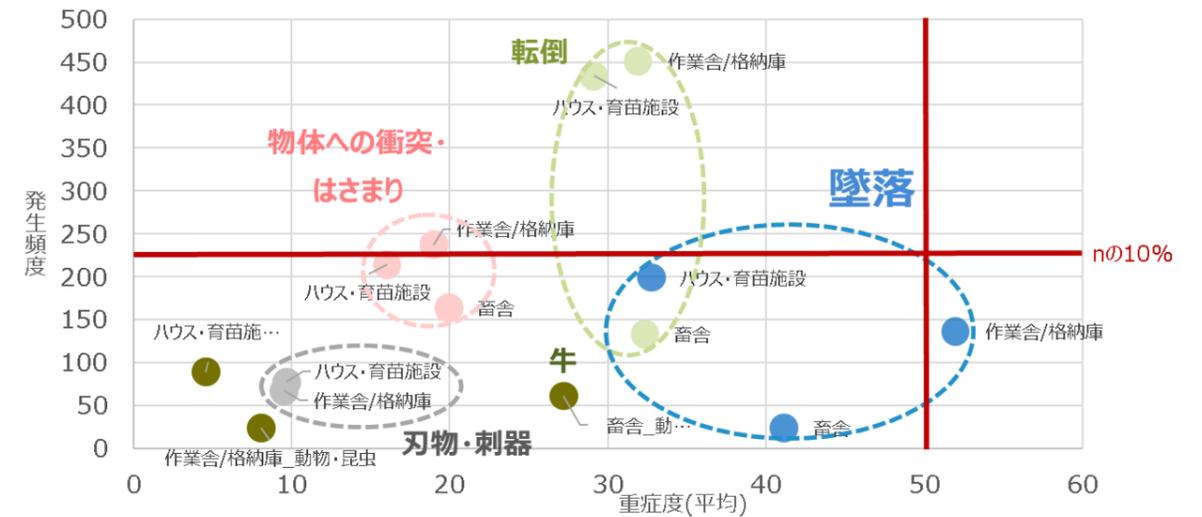
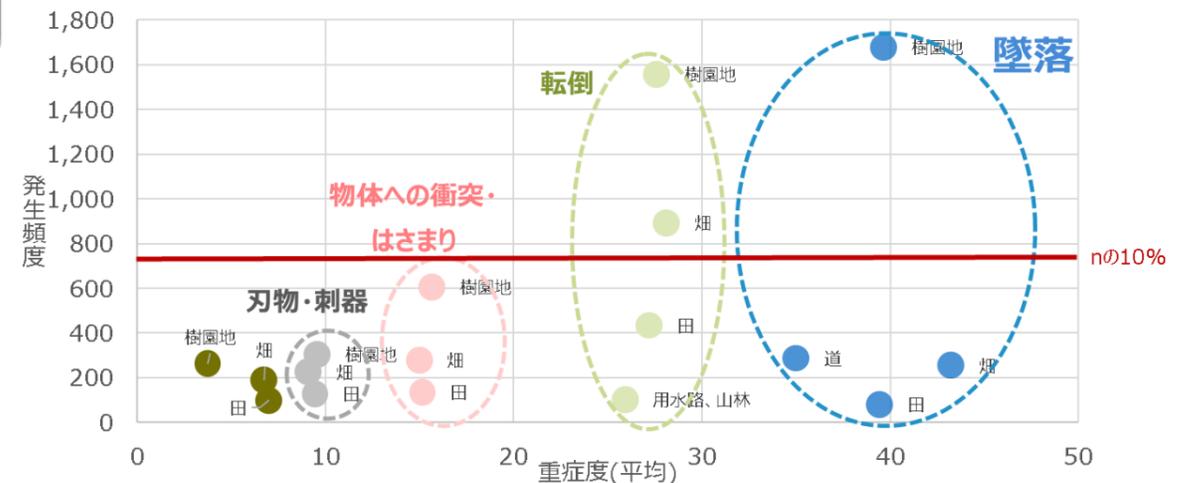


図 9 発生頻度と重症度 (平均) 【事故原因・発生場所別】

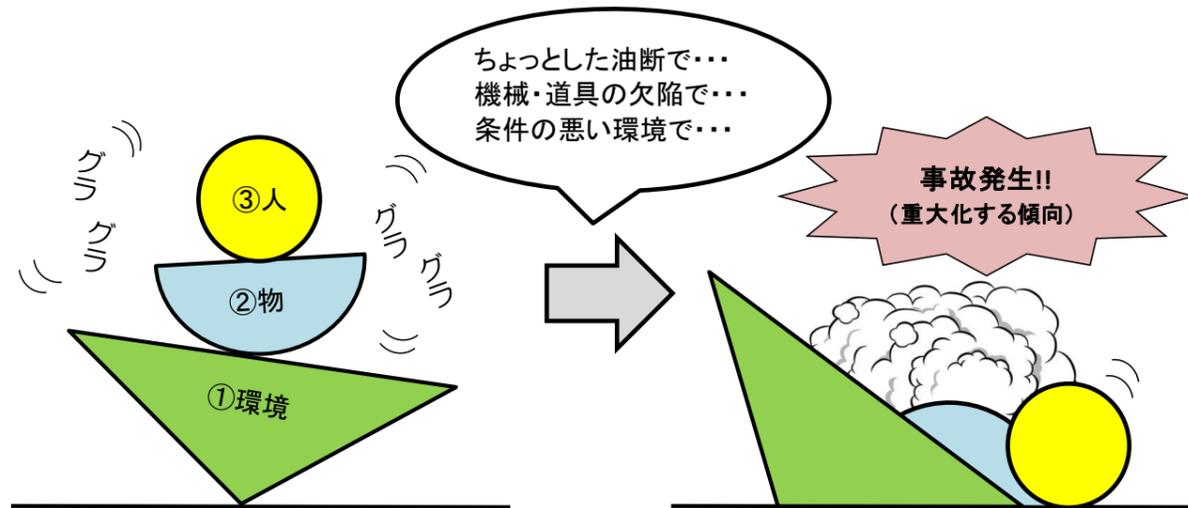


(注) 「樹園地」の頻度は、果樹農家の共済加入率が高いことが影響しています。

分析2 (概要)

農作業の特性と事故の関係

農作業事故はなぜ起こり、また、なぜ重大化する傾向があるのか、一般によく言われる農作業の特性と事故の関係をデータから検証しました。



農業の主な特性		データの検証	まとめ
① 環境	斜面、高所作業が多い	「転倒 (同一平面)」、「墜落」が事故全体の過半数を占める (図1) ・施設事故は約2割を占める (図2) ・発生時期は7~9月で約3割を占める (図3)	起いやすい 事故を
	狭く暗い施設、炎天下が多い		
② 物	様々な機械、用具、家畜を扱う	機械、用具、生物だけで約5割を占める (図4) 機械、用具、家畜の事故の重症度は、他の事故よりも高い (図5)	繋がりやすい 重大事故に
③ 人	高齢者が多い	高齢なほど重症度が高い (図6) 事故後すぐに発見されないケースが散見される	
		ワンオペレーションが多い	

環境

図1 発生原因

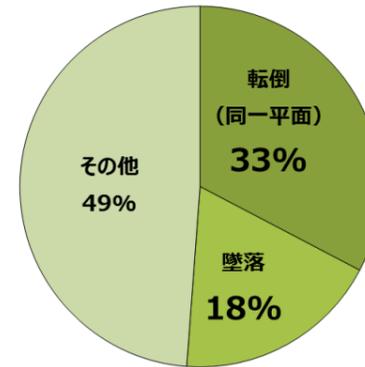


図2 発生場所

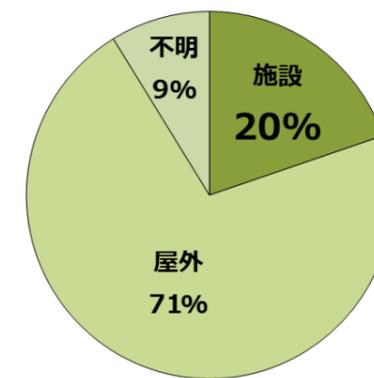
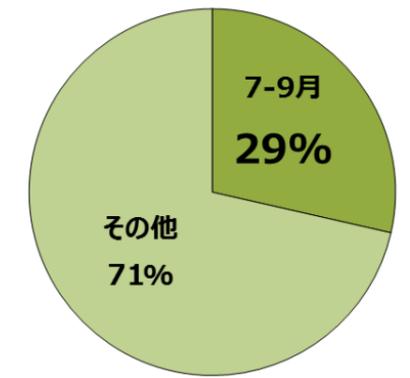


図3 発生時期



物

図4 発生件数 (割合)

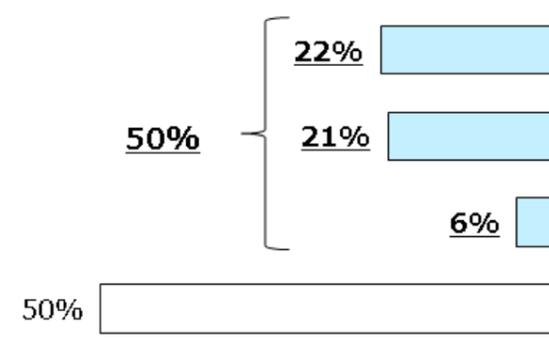
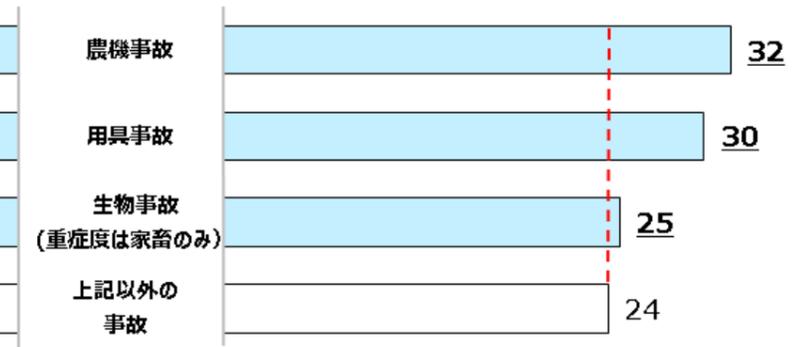
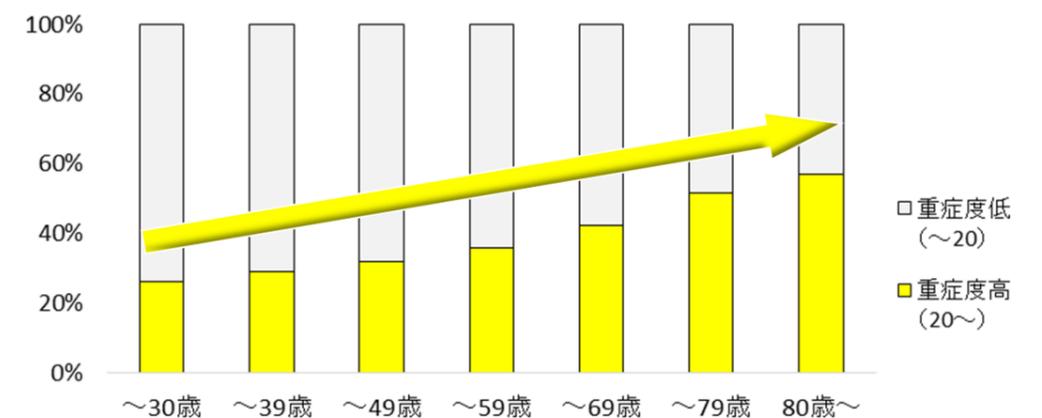


図5 重症度 (平均)



人

図6 年代別の重症度の割合



分析3 (概要)

主な農機・用具・生物の事故特性

主な農機・用具・生物（合計14種）について、それぞれの事故特性を明らかにしました。



事故特性のまとめ

- : 「乗用型」使用時の「公道・圃場での転落・横転・衝突」
- : 「乗用型」使用時の「乗降中の人の転倒」
- : 「歩行型」使用時の「下敷き・巻き込まれ・構造物と機械に挟まれ」
- : 「刈払機・はしご・脚立」使用時の「(不安定な場所からの) 転落・墜落」
- : 「刃のある機具」使用時の「巻き込まれ・刃との接触」

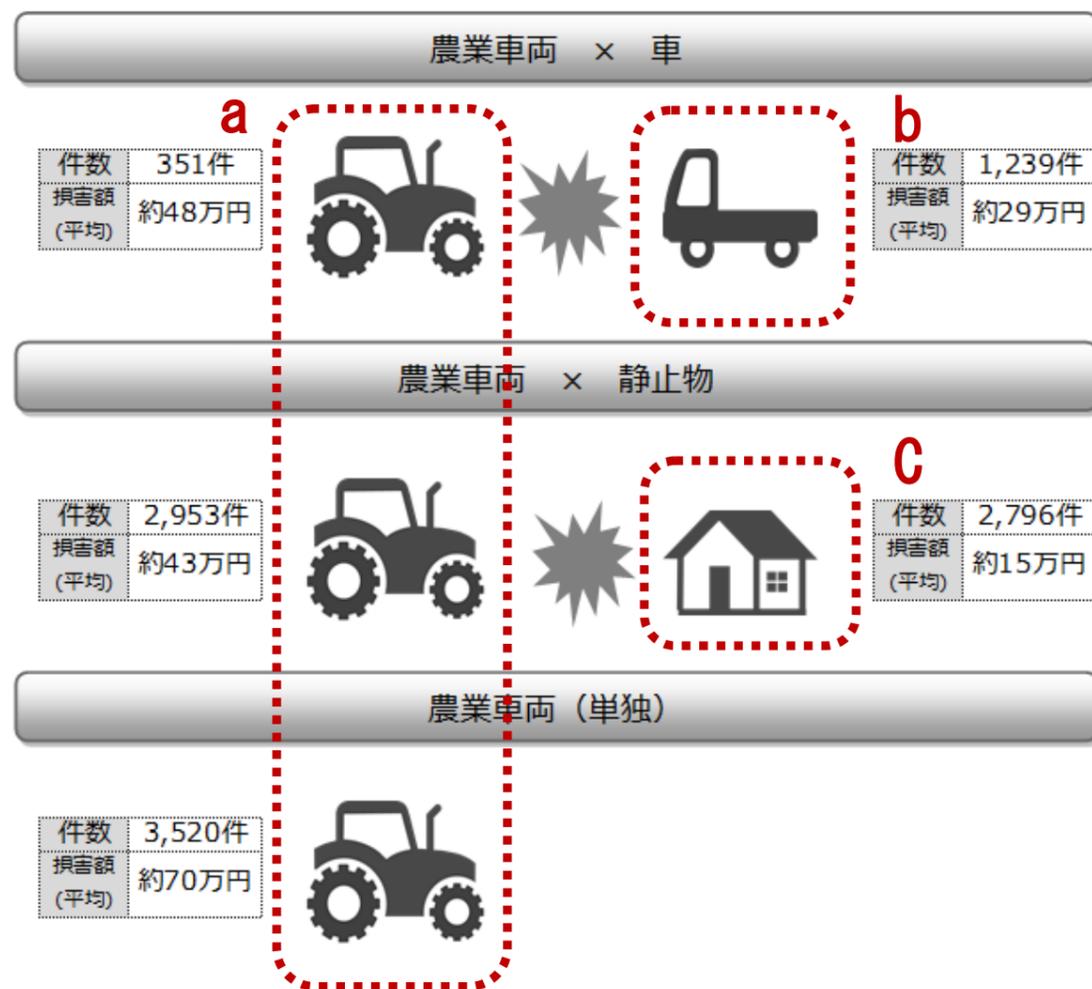
		発生件数 多 重症度 高	発生件数 多 重症度 低	発生件数 少 重症度 高
乗用型	乗用トラクター	前進(圃場) - 転落・横転 直進(公道) - 転落・横転	乗降中 - 転倒(のみ) 作業機連結 - 下敷き等	直進(公道) - 構造物と衝突 圃場出入り - 転落・横転
	田植え機	-	乗降・苗補充中 - 転倒(のみ) 点検・手入れ - 刃との接触	直進(公道) - 構造物と衝突 -
	自脱型コンバイン	-	手こぎ等 - 巻き込まれ つまり除去 - 刃との接触	後進(圃場) - 転落・横転 糞排出 - 構造物と機械に挟まれ
兼用型	歩行型トラクター	後進(圃場) - 構造物と機械に挟まれ -	前進(圃場) - 巻き込まれ -	始動 - 巻き込まれ 直進(公道) - 転落・横転
	農用運搬機	後進(圃場) - 下敷き 前進(圃場) - 転落・横転	後進(圃場) - 構造物と機械に挟まれ -	始動 - 構造物と機械に挟まれ -
その他	歩行用草刈機	-	前進 - 飛散物跳ね上げ 停止 - 巻き込まれ	停止 - 刃との接触 前進 - 巻き込まれ
	刈払機	-	前進 - 巻き込まれ 前進 - 飛散物跳ね上げ	前進 - 転落・横転
	チェーンソー	-	立木切断 - 巻き込まれ 剪定 - 巻き込まれ	立木切断 - 倒木の下敷き -
用具	脚立	樹園地 - 墜落 -	樹園地 - 踏み外し -	畑 - 墜落 作業舎/格納庫 - 墜落
	はしご	樹園地 - 墜落 樹園地 - 踏み外し	-	作業舎/格納庫 - 墜落 畑 - 墜落
	鎌	-	田 - 刃との接触 畑 - 刃との接触	-
	はさみ	-	樹園地 - 刃との接触	-
生き物	牛	畜舎 - 蹴られ -	畜舎 - ぶつかられる 畜舎 - 引っ張られる	-
	蜂	-	樹園地 - 刺され 畑 - 刺され	-

(注) 「発生状況(～するとき)」と「結果(～になった)」の組み合わせからなる「事故の型」について、発生件数が事故データの10%超の場合(「事故の型」が多様な乗用・歩行用トラクタでは5%超)に「発生件数 多」と判定し、重症度(平均)が50超(重症度が比較的低い用具・生物では30超)の場合に「重症度 高」と判定しています。

分析4 (概要)

物損事故の発生状況

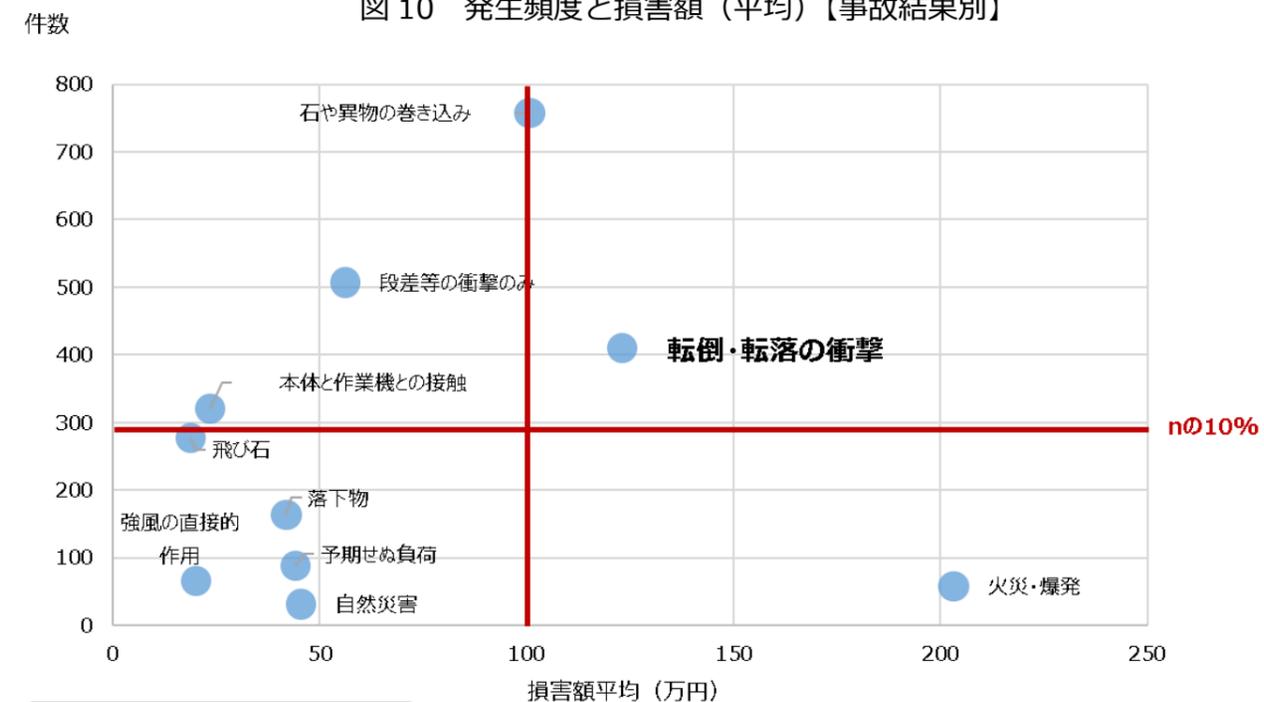
傷害事故の予備軍ともいえる物損事故の発生状況について、傾向を明らかにしました。



着眼点	まとめ
a : 自車両	<ul style="list-style-type: none"> 件数および損害額 (平均) は、「農業車両 (単独)」の形態で最も高い 特に「転倒・転落」については「発生頻度」および「損害額」のいずれの観点からも危険性が高い (図 10)
b : 相手方車両	<ul style="list-style-type: none"> 損害額 (平均) は、それほど高くはないが、実際にはこのほか相手方の人身傷害にかかる損害賠償を過失割合に応じて請求されることが一般的
c : 静止物	<ul style="list-style-type: none"> 損害額 (平均) は、低い 特に「壁」および「給水・排水設備」に衝突することが多い (図 11)

農業車両 (単独) の詳細

図 10 発生頻度と損害額 (平均) 【事故結果別】



静止物の詳細

図 11 発生頻度と重傷度 (平均) 【衝突対象別】

